

### 3 - 26 相模トラフ東部の海底地形・地質構造調査 (2)

#### Submarine Topography and Geological Structure in the Eastern Part of Sagami Trough (2)

海上保安庁水路部  
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

水路部では、昭和59年5～6月、測量船「拓洋」で、相模トラフ東部から伊豆・小笠原海溝にかけての海底地形・地質構造調査を実施した。その概要は前報に速報した<sup>1)</sup>。ここでは、この調査結果を含めた相模トラフ付近の最新の海底地形図、およびこの調査の一環として行われたマルチチャンネル反射法音波探査断面図を紹介する。

#### (1) 海底地形図 (第1図)

この地形図は、昭和59年末までの水路部の測量結果をすべて盛り込んで作成したもので、原図は50万分の1の縮尺である。この図から相模トラフの詳細な地形の全貌を見ることができ。ただし、この地形図の北東部海溝付近はデータ密度が粗く、概略の地形表現のみにとどまっていることに注意されたい。

#### (2) マルチチャンネル反射法音波探査断面図

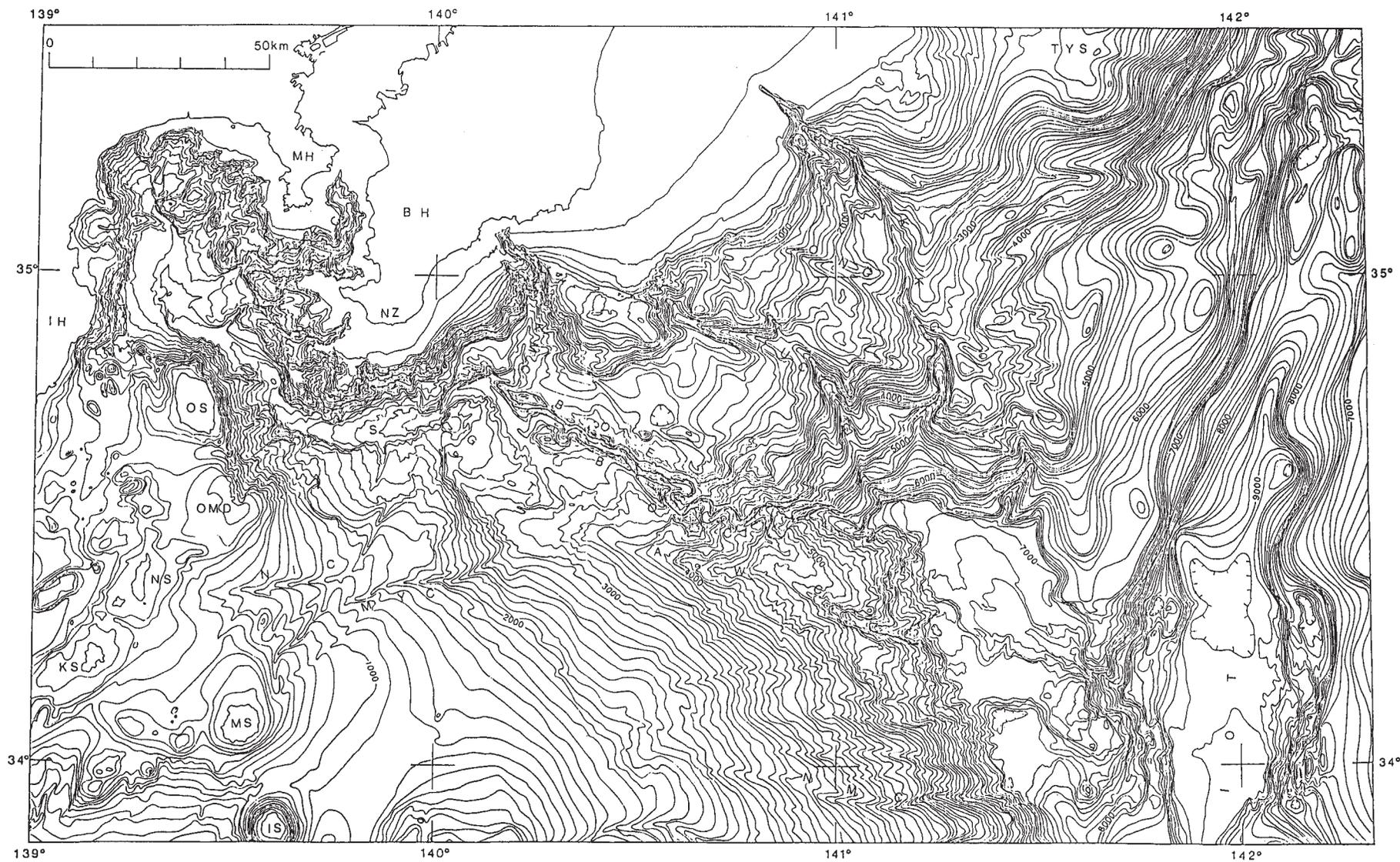
測線は第2図に示す3測線計175kmである。断面図は6重合マイグレーション後の深度変換断面図を示した(第3図)。

〔M1・M2測線〕房総海底谷付近には反射面がほとんど認められず、大きな変形を受けていると考えられる。房総海底谷の南側には変位・変形を受けた音響的層理の連続のよい地層が認められるほか、海底下2～2.5km付近に北東に傾く顕著な反射面が認められる。

〔M3測線〕南東側斜面下の海底下約1kmに連続のよい反射面が認められ、房総海底谷末端の海盆下まで北東方向に斜めに傾き下がる。南東側斜面下には、この反射面を変位させる北東落ちの逆断層が認められる。海盆下には水平な地層が北東ほど厚い楔状に堆積している。

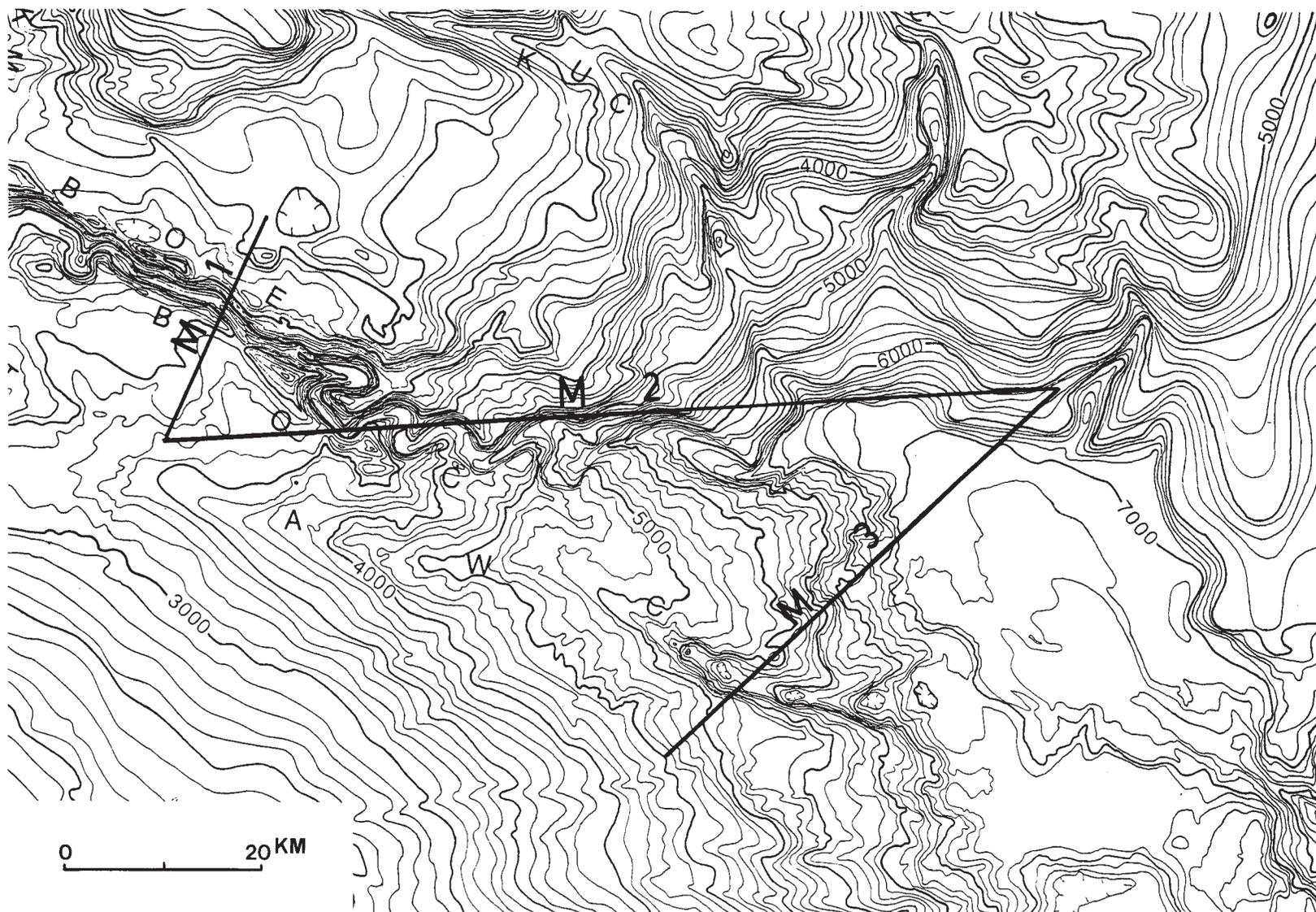
#### 参 考 文 献

- 1) 海上保安庁水路部：相模トラフ東部の海底地形・地質構造，連絡会報，33 (1985) 195 - 199.



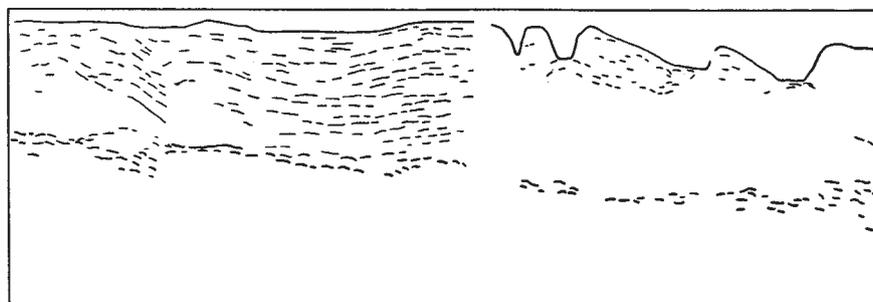
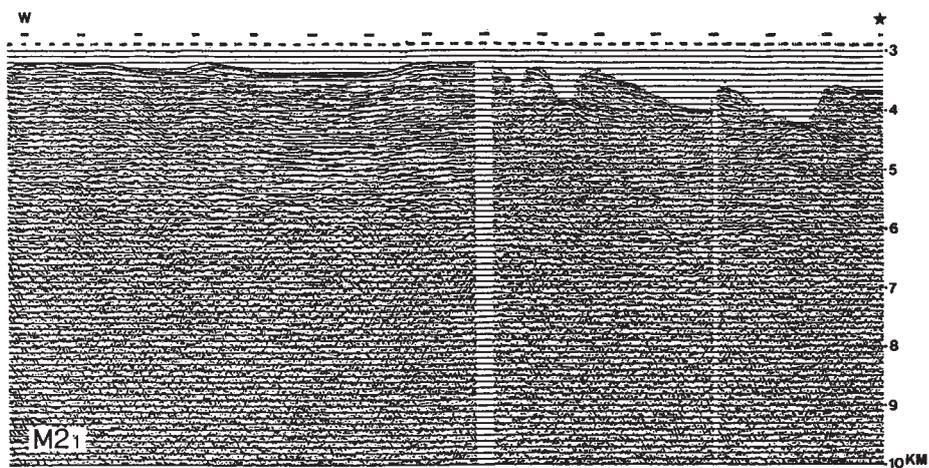
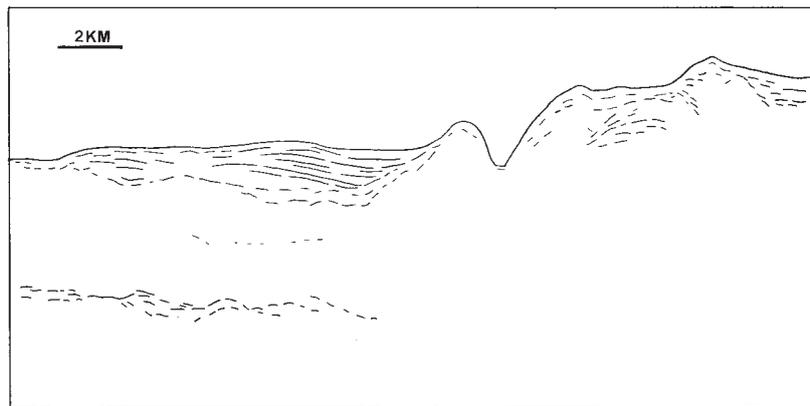
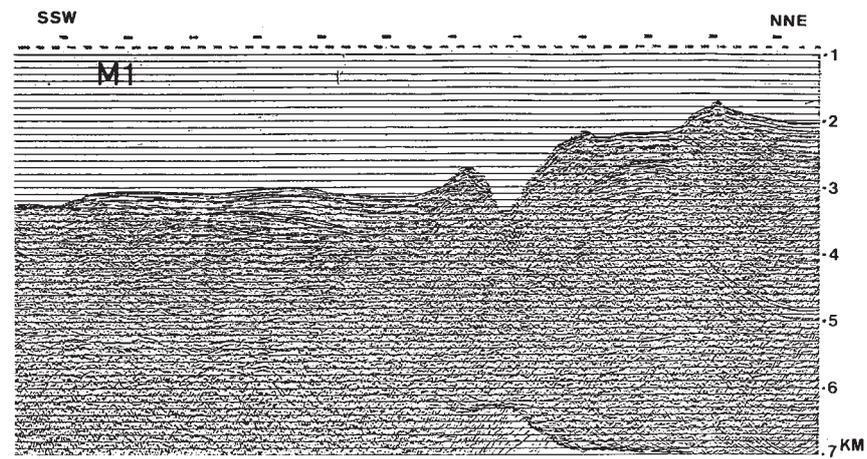
第1図 相模トラフ付近海底地形図

Fig. 1 Bathymetric chart of the area adjacent to Sagami Trough. Contour interval 100 m.



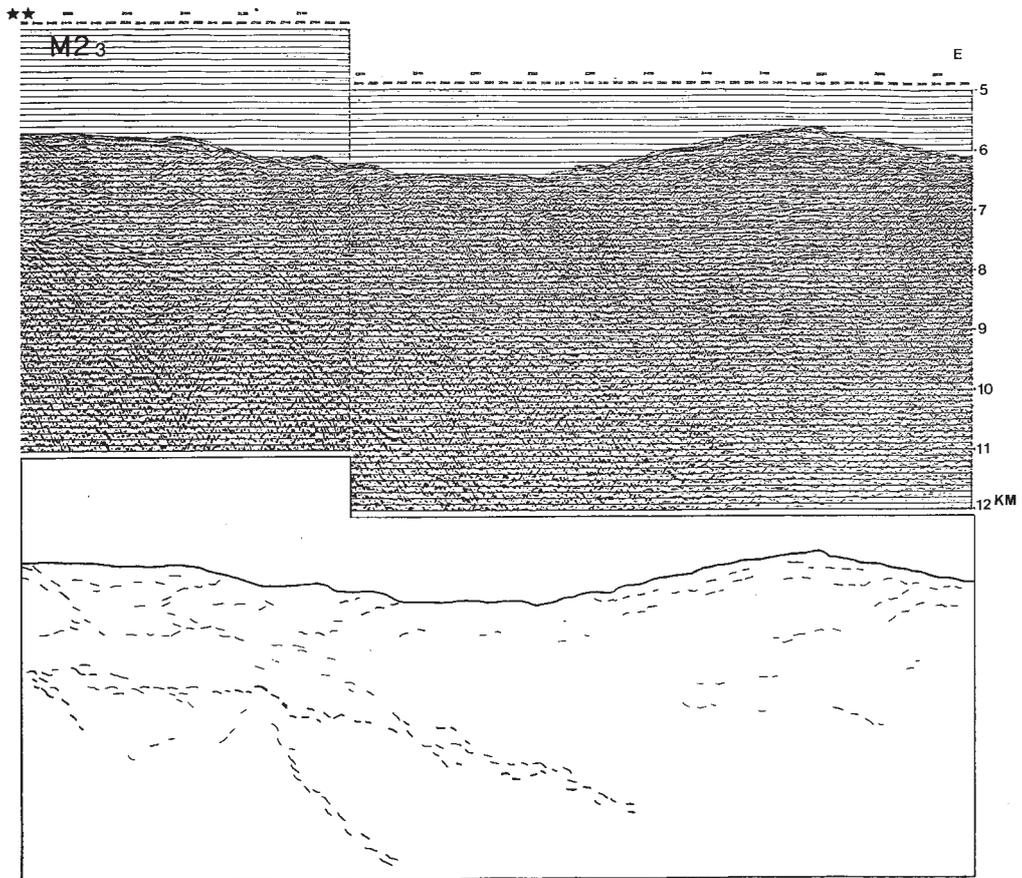
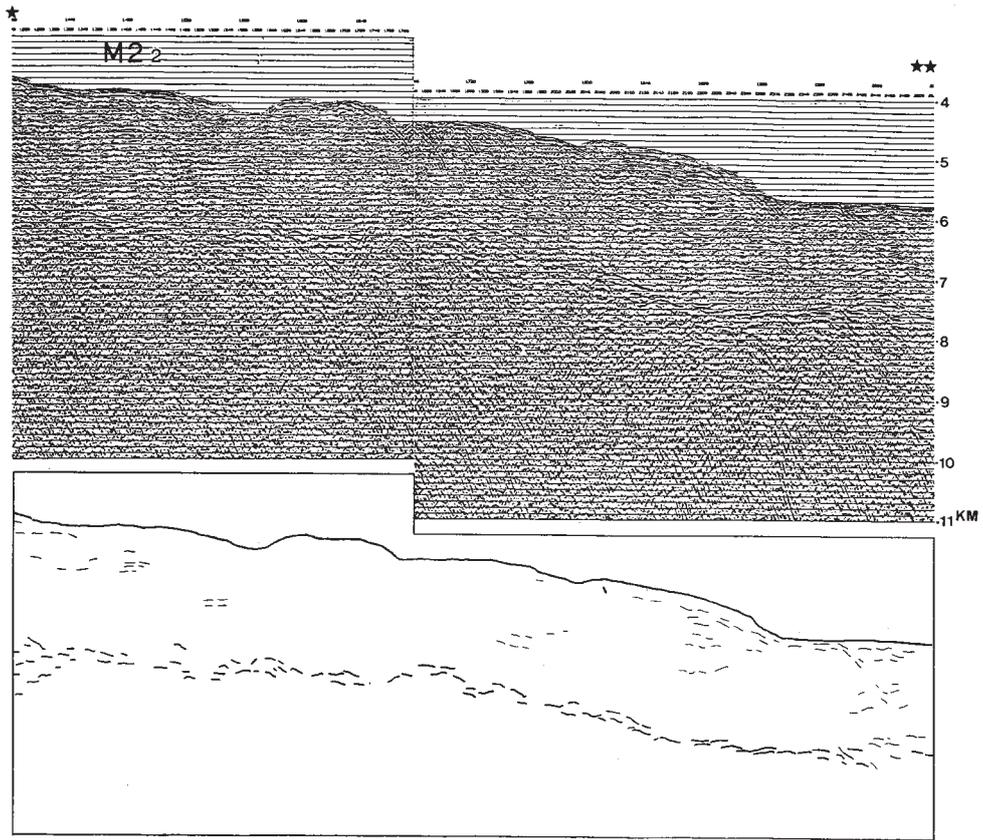
第2図 マルチチャンネル反射法音波探査の測線

Fig.2 Survey lines of the multichannel seismic reflection profiling.

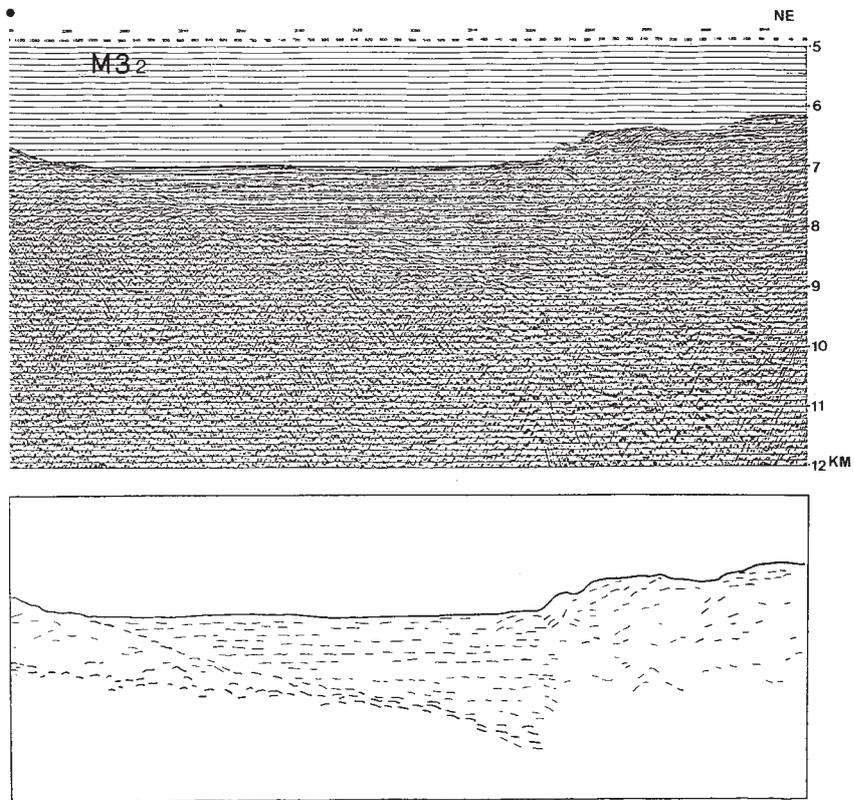
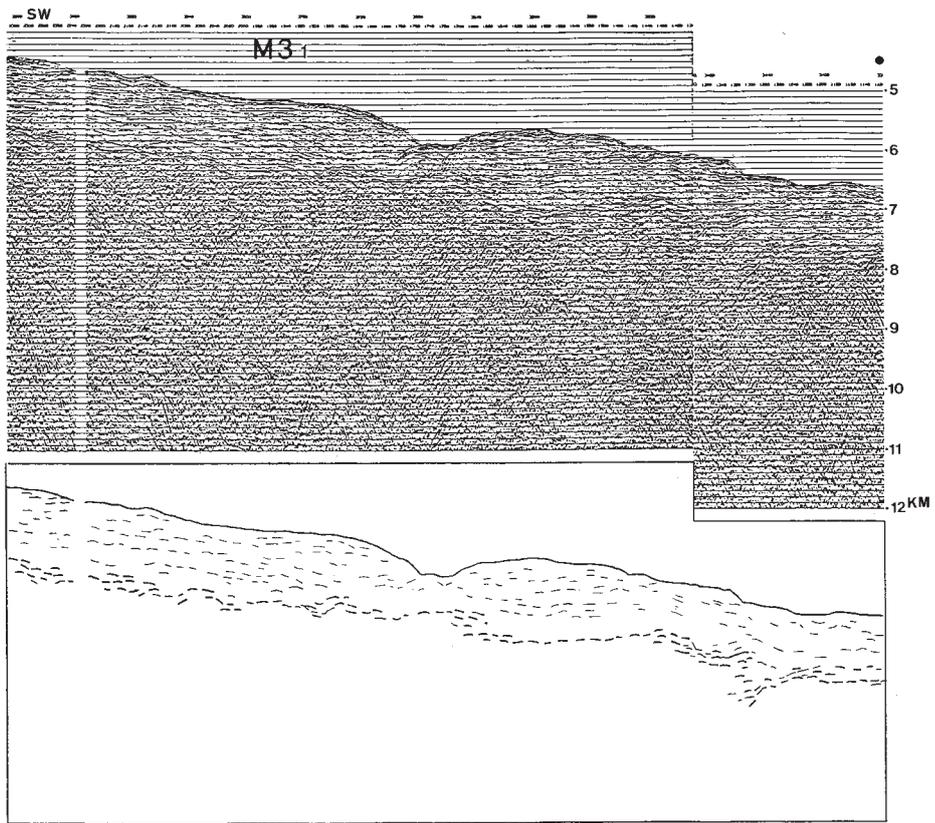


第3図 マルチチャンネル反射法音波探査断面図

Fig. 3 Multichannel seismic reflection profiles.



第3図 つづき  
Fig. 3 (Continued)



第3図 つづき  
Fig. 3 (Continued)